

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500105		
法人名	株式会社 文化タクシー		
事業所名	グループホーム ポランの広場いなせ		
所在地	〒023-1132 岩手県奥州市江刺区稲瀬字水先629		
自己評価作成日	平成26年10月10日	評価結果市町村受理日	平成27年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigvosvoCd=0391500105-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内		
訪問調査日	平成26年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年2月1日に、認知症対応型共同生活介護事業所として、又、併設する小規模多機能型居宅介護事業所と共に開設させて頂き、まだ3年目と歴史が浅い事業所では有りますが、その分、今後についてまだまだ成長できる余地があり、職員としては、出来るだけ機会を捉えて内部・外部研修へ参加し、資質の向上をめざしており、又、利用者様についても一人一人が中心となるべきプランを基に、職員と共に人間としての相互理解と尊厳の気持ちをもつ心がけ、良い信頼関係を築きながら、日々を喜びのある穏やかな暮らしが続けていける様努力しております。地域の皆様とも交流の機会を広げていながら、理解と協力を得る様に努力しており、地域に守られながら、地域に根差した安心・安全な環境を整えて行きたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・会社で定めた理念をわかりやすい表現にしたいと考え、新たに職員と話し合っ、「ポランの広場いなせ」(グループホーム・小規模多機能共通)の理念を①共に向き合い②共に笑顔で③共に与えて④共に生きる、と定めた。職員は、理念を意識ながら、丁寧なケアサービスの提供に努力している。
 ・管理者は、今年4月に赴任し、自治会に挨拶し、地域の防災訓練やビアガーデン等の行事に招待され、参加している。新年会(平成27年1月)にも招待されており、自治会へ加入し、地域との繋がりを図りたいと努力している。また、中学生(近隣の北上市)の職場体験授業を受け入れ、学校側から次年度も、と依頼があり、継続して受け入れることとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰でも見える場所に理念を掲示し、内容を理解した上で意識化し、日常の支援に取り組んでいる。	理念は、今年度、分かりやすい表現にしたいと考え、職員から募集しまとめたものである。職員の目に付きやすい事務室の神棚の下に掲示し、意識するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地域の産直から野菜等の食材を買ったり、地域の防災訓練や夏は地域開催のビアガーデンに参加させていただく等、出来るだけ地域の行事に参加して、更に交流を深めて行きたい。	管理者は4月に赴任し、地区の自治会に挨拶し、地区の防災訓練やビアガーデンに参加している。来年1月の新年会に招待されており、自治会の加入を考えている。事業所主催の夏祭りには、地域の方々の多数の参加を得ている。また、近隣の産直から食材を購入する等、地域との繋がりを大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ地域の方々への貢献は出来ていない状況ではあるが、運営推進会議の場や地域行事等に参加させていただく機会等を捉えて、支援についての理解をお願いして行くと同時に、いつでも相談に応じられる旨を周知して行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催する運営推進会議では、事業所での支援内容・行事内容・その他の取り組みについての報告を行い、運営推進会議構成員の方々の意見・要望等をお伺いし、サービスの向上に活かして行く様努力している。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や行事予定等の報告をしている。家族から夜間帯が不安との意見があり、夜勤者を2名にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1回開催する運営推進会議に出席していただき事業所の問題等を伝え、ご意見等をお伺いし、事業所全体として問題解決の方向に向かい資質の向上に努めている。	書類等の提出でも、出来るだけ市の窓口に出向いている。また、ケアマネジャーも市の担当者に、利用者の小規模とグループホームの居室の継続利用についての相談をしたり、市との関係は円滑に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状では全職員の正しい理解にまでは至っていない様に思えるが、実践やミーティングの機会等を通して利用者様の基本的生活を守る為の身体拘束禁止の重要性について理解していく様取り組んでいる。	玄関は、「入ること」は自由であるが、外出は自由ではない。居室の窓を夜間、施錠している。現状では、言葉の拘束も含め、身体拘束廃止の重要性の理解を深め、廃止に向けて努力している所である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員をはじめ、全人的に虐待が見逃される事の無い様に十分な注意を払い、虐待は許されるべき行為ではない事を伝え、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会などの取り組みが出来ていない為、職員の理解も不十分であると思う。今後は学ぶ機会を設けたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談・面談・契約の際重要事項説明書を基に、施設の体制・支援内容・権利・義務等をなるべく詳しく説明し、要望・質問・疑問等にも十分に理解して頂ける様にわかりやすく説明し、納得して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所・電話連絡・メール連絡・その他の連絡時に機会を捉えて状況報告及び意見や要望をお伺いし、運営や支援に反映させる様に努めているが、家族会等の改めでの意見交換の場がないので、家族等の意見や要望等について十分に表せる機会を作れていない。	家族とは、面会時や利用料支払い時に、状況報告し、意向を確認している。また、来訪時に、広報を配布している。家族から、電話では不在のことが多いのでメールを希望され、メールで連絡している方もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の引継時のミーティングや月1回の全体ミーティングをはじめ、日常的にいつでも意見や提案を発言できる環境にあり、ノート等を利用して情報の共有を行っている。	朝・夕のミーティングでは、「下肢機能の低下がみられるので脚の体操を取り入れる」「車椅子をリクライニング仕様に変えよう」等、利用者の状態の変化と対応が話し合われる。月1回の全体ミーティングでは、業務中心の話し合いである。時には、職員が、全員が、できるだけ参加できるよう、利用者のクリスマス会の後に職員の食事会をしようと話し合いすることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3ヵ月/1回程度で管理者と職員で個別面談を行い、日常の思いやストレス等を吐き出してもらいと共に、職場をより良くする為の環境や、やりがいについての意見や提案を出してもらい、出来るだけ希望に沿う様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会を捉えては、外部研修に参加する様にしており、他施設とも交換研修を行ったり、外部講師を招いての内部研修を行う等、資質の向上に努めている。又、自己の向上の為の資格取得を希望する職員に向けての協力は積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会等を通じて、同業者との交流を深め、情報の交換を行いながら、職員の交換研修を行い、他施設から何か得るものがあれば、それをサービスの質の向上に繋げる様な取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用導入前の相談の段階から、ご本人や家族様が不安に思っている事や困っている事等の意見・要望をお伺いし、安心して頂ける様出来るだけ丁寧に説明し、利用前には訪問調査を行い、情報収集を行い、ご本人の要望に出来るだけ対応できる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前にご本人と家族様が一緒に来所して見学をして頂き、不安や要望等、その他のどんな小さな事でもお伺いし、コミュニケーションを大切に、話しやすい雰囲気を作る様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前にご本人と家族様の意向をしっかりと伺いし、状況の把握を行うと共に、なるべく本人に最も適したサービスが利用出来る様に努め、場合によっては他施設の相談員とも連携がとれる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護理念でもある『共に向き合い・共に笑顔で・共に支えて・共に生きる』の精神を基本にコミュニケーションを出来るだけとる様に図り、信頼関係を築く様に努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護理念でもある『共に向き合い・共に笑顔で・共に支えて・共に生きる』の精神を基本に家族と共に、利用者・家族・事業所の3者が共に支えて行ける様に信頼関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・知人・友人等、全ての方の面会時には、いつでも遠慮や気がねなく来所していただき、ゆっくりと過ごして頂ける様な環境を作る様心掛けており、手紙や時候の挨拶のハガキ等のやり取りも行っている。	家族や知人等の面会時は、お部屋に案内したりホールの使用に配慮し、気兼ねなく来所できるよう心がけている。手紙やはがきの通信は自分で出来る方もいる。訪問理容の近所の床屋さんとも馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や互いの共通性を把握し、気の合う同士が交流を楽しめる場を設定したり、全員が一緒の行事やレク活動を行える様な支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、いつでも相談に応じる体制で有る事を説明し、理解されているとは思えるが、それ以降の家族様からの連絡はあまり無く、近隣で行き合う時に近況を伝えて頂く程度である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や会話や表情等を観察し、その中から思いを把握するように努め、家族様からも情報の収集を行い出来るだけ利用者本位の支援ができる様に心掛けている。	利用者へは、顔の正面(顔が見えるところ)で、声掛けすることを心がけている。穏やかに丁寧に声掛けをし、言葉と、笑顔を引きだしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前の情報の収集を出来るだけ行い、フェースシート①～⑦や生活情報シートを活用し、生活歴・家庭環境・家族構成・病歴・サービス歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック・食事量・水分量・排尿・排便のチェックや月1回の体重測定等を行い、一人一人の健康状態を把握する様にしており、出来るだけ個々のペースで生活できる様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り事項や全体ミーティング等ででた情報や意見を検討し、必要であれば家族にも確認して、統一した情報の共有を行い、変化する状態の見直しにも柔軟に対応できる様に努力している。	日々の関わりでの気づきを確定前ノートに記録し、確定ノート(業務日誌)に、対応を記載している。介護計画は、ミーティングや会議、日々の業務の中での会話、ノート等を参考にし、ケアマネジャーが作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記入については、職員によりまだ多少のレベルの差がある様に思えるが、職員間の話し合いや工夫により、実践に繋がる様に努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々個々の変化や必要に応じて、状況に即した対応やサービス内容の変更を行い、画一的な支援にならない様に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の中学校からの職場体験等の交流を行ったり、夏祭りでは近所の方たちも訪れたりして頂いてはいるが、地域資源の把握や地域交流については、まだ十分ではないと思えるので努力して行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族様に依頼しているが、個々の状況により、情報提供書の発行を行い、場合によっては職員が付き添って受診を行い主治医との連携を図っている。又、必要に応じて往診を行っている。	受診は、家族が付き添っているが、都合がつかない時は事業所で、支援している。また、かかりつけ医には、情報提供書を発行している。往診で対応している利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護職との連携をとり、職員の気付きや様子について相談し、助言を得る等、個々の情報を共有し適切な援助を受けられる様にしている。又、場合によっては通院先の病院看護師との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は情報提供を行い、医療機関と連携し情報の共有を行っている。入院対象者がいる場合は病院の相談室や看護師等の病院関係者から経過や状況を聞き取り、今後の方向性について等、家族様も含めて相談させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用前に家族様には医療的処置が必要になった場合の当事業所で出来る事、出来ない事を説明し、当事業所で対応できない状況が生じた場合には他の資源の活用、他の事業所情報を提供する様にしている。	看取りの対応はしていない。利用開始時に、重度化した場合、事業所が対応できること、出来ない事を説明し、理解して頂いている。状態の変化等には、常勤の看護師に相談している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルや消防署・警察署・家族様・管理者・看護師等の緊急連絡先を掲示し、職員が速やかに対応出来る体制を整えと共に、応急手当やAEDの使用法の周知を図る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行われる避難訓練を含めた消防訓練(1回は消防署様立ち会い)を全職員を対象に実施しており、地域の防災訓練にも参加させて頂き、協力体制は十分といえないものの、いづらかは出来ていると思われる。又、備蓄は水・食料・簡易トイレ、暖房用品等がある。	年2回避難訓練を実施している。消防署立ち会いの防火訓練に、全職員が参加している。また、夜間想定で、2名体制で避難訓練を実施している。地域の防災訓練に、管理者が参加している。事業所の訓練には、地域の協力体制はまだ十分ではない。水、食料等の備蓄を行っている。	夜間想定訓練では、2名の夜勤体制で3分で、利用者を避難させることが出来た。今後は、実際に夜間に訓練されることを期待したい。また、自治会に加入等をきっかけとし、地域の方に、訓練や非常時に、(参加)協力が得られるよう働きかけて頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、職員の言葉遣いや態度に配慮がなされる様に周知している。又、プライバシーの確保に注意し、記録等の個人情報の取り扱いに注意している。	職員は、利用期間が長い利用者等と、慣れ合い(馴れ馴れしい関係)にならないよう、気を付けて対応している。名前を呼ぶ際も、名字・名前それぞれの希望に合わせている。声掛けする際、声の大きさも個々の状態を配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定は尊重されるべき事であり、利用者様一人一人が思いを表現できる環境作りや声掛けを行うようにしており、表現が困難な方には言動からニーズを読み取り代弁する様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースを理解、把握し、何事も好き勝手というような無法の生活ではなく、それなりのルールに沿った、且つ出来るだけ希望をかなえる様な支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洋服選びから始まり、なるべく個々の好みを尊重しながら季節に合わせた服装が出来る様に支援しており、近隣の理美容室の方にも定期的に訪問して頂き、身だしなみや清潔に配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の身体状況により、刻み食やお粥等にしたり、柔らかか食にしたりと、個々に適合した内容にする様にしているが、好き嫌いもあるようなので、把握して、全量摂取して頂ける様、代替メニューで対応する場合もある。	食事については、主菜・副菜は、配食サービスを利用しており、ご飯とみそ汁や、スープは、事業所で調理専門の職員が作っている。行事食は事業所で調理している。利用者は、調理に参加できないが、下膳・テーブル拭きなど片付けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を記録し、個人の状態に合わせて量や形態を変える等して、バランスに配慮しながら健康状態の管理に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員の中には歯科衛生士もおり、口腔ケアの重要性を理解し、毎食後は利用者様個々の能力にあわせて、声掛け、見守り、一部介助、義歯洗浄、全介助等の援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを記録・把握し、時間をみて声掛けてトイレ誘導をする等、失敗の回数を減らし、出来るだけトイレでの排泄が続けられる様に努めている。	排泄については、自立できている方もいる。排泄チェック表で習慣を把握し、トイレでの排泄を支援している。失敗した場合は、タオルで清拭しているが、失敗が大きい場合は、シャワー浴で対応している。失禁することがあっても早く処理し、嫌な思いをしないように努めている。誘導には、周囲に判らないようにさりげなく声をかけることで取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックで状況を把握し看護師と連携をとり、水分摂取、ヨーグルト摂取、適度の運動等で自然排便を促す様に心掛けているが、改善が見られない場合には処方された下剤を使用し、排便の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は職員の事情による所が多く、時間や順番も概ね決まってしまうが、個々の体調や事情により、曜日の変更したり、入浴拒否等のある場合は時間をずらして声掛けを行い、清潔に配慮するようにしている。	入浴日は、月・火・金・土の午前の週4回となっており、週2回は入浴出来ている。小規模に、特殊浴槽があり、状態に応じ必要な方は利用している。季節で、菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。入浴を嫌う方は、声掛けを工夫したり、時間をずらしたりしている。看護師が、全身の状態や皮膚の観察を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は利用者様個々の生活パターンを把握すると共に、体調や希望によって自由に休息できる環境を作っており、日中は適度な活動を促し、生活リズムを作る事で安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を把握し、新しい薬についても用法や副作用について理解を深めるべく努力しており、服薬コンプライアンスについては良好であると思える。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や得意な事を活かし、書道、塗り絵、折り紙、花作り・野菜作り、TVドラマやスポーツ観戦、歌等を楽しんでおり、天気の良い日は近所を散歩する等して気分転換となる様に支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春の花見や秋の紅葉の時期には、天気の良い日にドライブを行い、その他の季節においても、天候や気温によって外に出る機会を設け、変化の有る季節と風景を楽しんで頂いている。	利用者が、外を見ていたら声がけし、天気の良い日は、事業所の周辺を散歩したり、畑に出掛けたりしている。畑の作業は、収穫と苗をポットから植え替えることができる。季節毎に、花見や紅葉見物にドライブしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、お金の紛失や勘違いによるトラブルを防ぐ為に日常的に金銭の所持は遠慮していただいているが、個々の能力と家族様と話しあいながら、多額ではない程度所持していただき、理美容代程度は本人が支払える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人・友人等との手紙やハガキのやり取りや家族様等との電話を通じての会話を援助する等、外部との交流が維持できる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は共同で作成した作品を飾ったり、季節を感じられる花等を飾り、利用者様のテーブルの配置についても配慮し、必要に応じて遮光したり、室温・湿度の調整、換気行い、なるべく居心地良く過ごして頂ける様な工夫を心掛けている。	共有空間は、グループホーム・小規模それぞれ個性が感じられる飾りつけをしている。廊下上部に、監視カメラを設置しており、事務室から見えない場所の観察を補完している。居室も含め、床暖房である。また、ソファ、食卓、テレビ、新聞かけ等が配置され、居心地の良さが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の落ち着く場所でテレビを観たり、新聞や雑誌を読むなど、また気の合う同士で話しをする為に座る席を誘導する等、落ち着いて過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご本人や家族様と相談し、馴染みの物・思い入れのある物・家族写真等の気持ちのやすらげる物を置く様にお勧めして、居心地の良い空間になる様配慮している。	居室には、小箆箆と電動ベッドを備え付けている。家族の写真やカレンダーを飾ったり、家庭的雰囲気配に配慮している。掃除は、消毒も兼ねて職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力を把握し、補助具の使用や各所に手すりを設置したり、貼紙で理解しやすい様に表示したり等環境の整備に配慮しながら、できるだけ自立した生活が安全に行える様に工夫している。		